

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

A. アカデミックラボ ～「環境」と「地域」をテーマに～

ア 平成28年度アカデミックラボの振興計画

2年次アカデミックラボでは、「環境」と「地域」を2本の柱として、「人文科学・社会科学・自然科学」分野において、アカデミックラボで課題研究を行い、探究する力、表現する力、課題設定・解決力、地球規模で考える力を高めるものとする。さらに、ハーバード大学の学生とのワークショップを行い、課題研究を深め、地球規模の視野を得る。

3年次では、「英語による課題研究発表会—SAGANO GLOBAL PRESENTATION」を開催し、研究課題を英語で発表し、質疑応答することで、課題研究を深める機会とする。その後、引き続き、研究成果のさらなる深化を図る。また、海外のパートナー校と国際ワークショップを実施し、課題研究内容等についてのディスカッション等を通して、課題理解の深化を図る。

4～12月	課題探究学習（中間発表会は各ラボで）
1月	ポスター発表準備
2～3月	校内発表会、外部での発表会等へ
6月	SAGANO GLOBAL PRESENTATION開催

イ 課題探究学習を始めるにあたって

京都大学大学院教育学研究科准教授 西岡 加名恵氏講演会（4月25日（月））を実施。各ラボで課題探究学習を始めるにあたって、「探究とは何か？」という題目で講演を頂き、これから始まる生徒たちの探究活動について、示唆溢れる時間となった。

ウ アカデミックラボについて

開講ラボ名	内容
「京・平安文化論」	女流文学を読み解き、現代の日本人に通じる日本人の精神を探究
「躍動する時代—中・近世—の文芸	サムライや町衆に通じた作品により「日本のこころ」について学ぶ
「日本文学から見る近・現代」	人間存在を取り巻く環境としての社会の在り方を文学作品に見る
「数学活用ラボA」	数学を活用して環境に関する問題を解決する方法の探究
「数学活用ラボB」	数学を活用して地域・社会に関する問題を解決する方法の探究
「理科ラボA」	自然現象や地域の自然についての探究
「理科ラボB」	自然現象や地域の自然についての探究
「理科ラボC」	地域の自然、世界的な環境について文献調査及び実験・観察を通して探究
「法学ラボ」	法的なものの考え方を理解し、法律や訴訟にもとづく課題解決を研究
「ソーシャル・ビジネス・ラボ」	身近な地域社会の課題解決をビジネスの視点から研究
「国際関係ラボ」	模範国連の手法を用いて、国際関係を考え、今後の日本の在り方を研究
「京の食文化」	京都の伝統文化を食文化の視点から探究
「Global Issues」	世界の今を考え、課題について考え、高校生の視点から解決策を研究
「グローバルサイエンス」（SSH指定）	グローバルな視点から持続可能な京都の未来の環境を考察
「京の文化財」	京都の文化財を芸術の視点から理解・探究
「芸術工学」	社会と環境のデザインをテーマに未来を切り拓くような解決方法を考察
「身体操作論」	日本独自の身体操作や合理的な身のこなしについて探究する

アカデミックラボでは、生徒全員が各ラボ（研究グループ）に所属して、課題研究に取り組む。各ラボでは、テーマ決めや中間発表の際にチームでディスカッションすることを大切にしている。今年度より全教科でラボを実施し、より学校全体での取組となっている。

エ アカデミックラボ発表会

平成29年2月11日（土）本校でSSHの取組と合同で実施した。京都こすもす科共修コース及び普通科生徒が、61グループに分かれてポスター発表した。

13:25～13:30	開会式
13:30～15:15	ポスター発表
15:15～15:20	閉会式

ポスター発表については、説明6分と今年度は質疑応答の時間を1分間延長して5分とし、計8回実施した。第1学年生徒と高校・大学関係者及び保護者が見学した。



オ 大学等との連携

全てのラボが大学等と連携している。

<主な連携先>

大阪大学、京都教育大学、立命館大学、関西大学、京都造形芸術大学、京都嵯峨芸術大学、京都学園大学、京都市右京区役所、京都弁護士事務所、日本政策金融公庫

B. グローバルサイエンス

現代社会の諸課題と科学技術の果たす役割をグローバルな視点から捉え、将来、海外の研究者等とディスカッション等を行うために必要とされる科学的なものの見方や考え方、課題設定・解決能力やコミュニケーション能力の基礎を習得させる。地球規模の環境問題とその解決のための最先端科学技術等を学ぶとともに、地域の身近な環境を取り上げ、調べ学習や体験的学習、課題の設定・解決策の提案を通して、課題設定・解決能力や英語の CALP (Cognitive Academic Language Proficiency：認知的学術的言語能力) の基礎を身に付けさせるために、「クラウド」を活用して指導を行うことにより、協働作業（プレゼンスライド作成等）を一層促進し、教育的効果が高められると考えている。テーマについて調べ学習等を行い、クラス内で英語でディスカッションし、海外の高校生とディスカッションの機会を設定した。また、ICTの積極的活用を図り、調べ学習やチームでプレゼンスライドを作成した。自らのグループの提言を京都市の風致行政担当者などに対して発表しフィードバックをもらい、また、シンガポールの生徒に対しても嵐山の魅力と課題を英語で発表した。

○海外のパートナー校との連携

- ・シンガポール国 イーシュンタウンセカンダリースクール
- ・シンガポール国 ナンチャウハイスクール
- ・シンガポール国 ハイシンカトリックスクール
- ・シンガポール国 ダンマンハイスクール

○年間で取り組んだプロジェクト

嵯峨・嵐山について調査研究し、持続可能な発展のビジョンを作成し、その実現のための具体的方策を考案し、プランとして発表した。

C. 国際理解

課題設定・解決力や国際的教養を身に付けたグローバルリーダーの育成を図るために

ア 海外パートナー校との課題研究

海外の同世代の高校生徒との交流を通して、多様な考え方に触れ、地球規模の視野で考える力をつけるため、国際ワークショップを行った。生徒は、「持続可能な社会の形成、環境、地域の諸課題」について取り組み、国際チームで同一課題に向けて取り組むことで、国際舞台で通用する異文化コミュニケーション力やリーダーシップをとる力を身につけることを目的とした。校内では、以下のとおり実施した。

課題研究に取り組み、国際チームで、言語の壁や異文化の壁を越える体験とするため、海外のパートナー校へ訪問を行い、持続可能な社会の形成・環境や地域の諸問題についてフィールドワーク、ディスカッション、グループワークを行った。

海外研修参加者には、事後報告として、在モンテリオール日本国総領事や全生徒への報告を行い、学校祭においては、本校や外部の生徒、外国人留学生や教育関係者を対象に、英語でポスター発表を行い、質疑応答を行った。

実施で大事にしていることは、「手作りの相互交流」・「同世代の若者との交流」・「ミニ課題研究の成果発表」「報告会の実施」「ICTの積極的活用」であり、ミニ課題研究の特徴としては、「持続可能な社会形成（ESDの理念）」と「未来デザインの提案」である。

①校内での交流

- I シンガポールハイシンカトリックスクールの生徒との交流（6月1日（水）3日（金））
- II アメリカジュピター高校環境コース生徒との交流（6月9日（木）、10日（金））
- III 台湾ワシントン高校生徒との交流（10月13日（木））
- IV シンガポール ナンチャウハイスクール生徒の交流（11月9日（水）・14日（月））

②海外での交流

<趣 旨>

将来、グローバル社会のリーダーとして活躍するために必要なコミュニケーションへの積極性、英語・異文化コミュニケーション力及び課題設定・解決能力を養うことを目的とする。

i アメリカ・フロリダ研修

<日 時>平成 29 年 1 月 4 日（水）～1 月 14 日（土）

<参加者>嵯峨野高校 2 年生 6 名

<場 所>

アメリカ合衆国フロリダ州内の各地：ジュピター市文化環境関連施設、ジュピター高校、フロリダアトランティック大学、リバーウッズ・フィールド・ラボラトリー、ケネディー宇宙センター他

<内 容>

ジュピター市における歴史・文化・環境FW、リバーウッズにおける環境管理システムFW、ケネディスペースセンターにおける科学技術文明FW、ジュピター高校における授業参加・プレゼン発表、ロクサハチ野生生物レフュージへの合同FW等を行った。あわせて、ジュピター高校環境アカデミーコース生徒宅におけるホームステイプログラムを行った。



ii カナダ・ケベック研修（予定）

<日 時> 平成 29 年 3 月 18 日（土）～3 月 26 日（日）予定

<参加者> 嵯峨野高校 2 年生 6 名

<場 所> カナダ・ケベック州

<内 容>

ロシュベル高校（IBスクール）やコレージュ・ド・コンパグノンでの合同授業と生徒交流、環境（森林等）関連施設で環境（森林：モデルフォレスト運動、エネルギー他）研修（ラバール大学）、マギル大学キャンパスツアー、ケベック州議会議長、在モントリオール日本国総領事館他の日本カナダ政府関係機関表敬訪問

iii 海外研修の事後報告について

- ・1 学期始業式後、全校生徒に平成 27 年度ケベック研修報告。（平成 28 年 4 月 8 日（水））
- ・中期留学（アメリカ、カナダ）をしていた 2 名の生徒が全校生徒に報告。（平成 29 年 1 月 10 日（火））
- ・中期留学について、京都府教育委員会広報誌「きょうとふの教育」及び毎日新聞から取材を受け、それぞれ記事になる。

イ 海外トップ大学の学生とのワークショップ(課題研究)について

①HLAB サマースクールと嵯峨野高校とのコラボ・ワークショップ

グローバルリーダーの資質を育むため、ハーバード大学をはじめとする海外トップ大学の学生や日本の大学で学ぶ日英バイリンガルの学生と共に、FW等を通して、嵯峨・嵐山の地域の美しい自然や環境、歴史・伝統・文化について探究した。加えて、海外の大学で学ぶことや国際チームを編成して、京都の持続可能な発展に関する共通の課題についてディスカッションや発表を行い、課題研究の手法を学んだ。また、海外大学の学生と交流することで、国際的なキャリアへ進む方法などを知り、グローバルな社会で活躍するための資質を育むこととした。

<日 時>平成 28 年 8 月 26 日 (金) 27 日 (土)

<参加者>京都府立嵯峨野高校生 44 名、HLAB 関係者 27 名

<内 容>	8/26 (金) 於/宇多野YH
	・セッション1/ディスカッション「自己紹介等」 ・セッション2/ディスカッション「海外の大学で学ぶこと」
	8/27 (土) 於/嵐山エリア
	・セッション3/日本文化体験(天龍寺での座禅、庭園鑑賞) ・セッション4/嵯峨嵐山フィールドワーク ・セッション5/グループ課題研究(小倉百人一首殿堂時雨殿) ・セッション6/各グループからのプレゼンテーション



D. ICTに関連したESDにおける取組

ア 4月～10月

ICT関連の技術・手法を学び、今後の課題探究学習に必要な文書作成、データ処理の方法や資料作成の方法(パワーポイント等)を学んだ。

イ 11月～3月

課題探究学習を11月から開始。この課題研究の最終目標は、ESD(Education for Sustainable Development)について、グループで問題を発見し、課題を設定し、仮説を立てることである。

準備として、ESDについて、またその中で興味を持った事柄についてまとめて、夏季休業中にレポートを作成した。11月からは3名～5名のグループをつくり、課題探究学習を行った。最初にグループ内でESDについて調べ、さまざまな問題を発見するための時間をとった。次にテーマ別にグループを設定し、仮説を立案した。最終的に自分達の考えをスライドでまとめ、1月下旬から2月上旬にかけてクラス内で発表を行った。その中で、最も評価の高いグループをクラス代表として、2月11日(土)の「社会と情報」合同発表会に出場した。各クラス1グループずつ合計6グループによるプレゼンテーションを実施した。各グループの発表内容は、町おこし、和食の重要性、宇宙開発による土地不足解消、地球温暖化について、新しい発電方法、資源の再生など、持続可能な社会構築に向けたテーマに沿ったものであった。

課題探究学習で学んだ「課題探究基礎」の手法は2年次のアカデミックラボにつなげる。

E. 京都ユネスコスクールのネットワークの取組

京都のユネスコスクール6校(嵯峨野高校、京田辺シュタイナー校、一燈園、平安女学院、京都外大西高校、紫野高校)のネットワーク(ユネスコASPネット Kyoto)を創設するための準備会議に昨年度から加わり、今年度は、6校の生徒の交流事業の企画運営に参画し、嵯峨野

高校生徒及び加盟校のESDに関する生徒の豊かな学びを促すことができた。

(1)日時：平成28年11月5日(土) 13:00-17:30

(2)場所：上賀茂神社(世界遺産)

(3)参加者：ユネスコASPネットKyoto校生徒(約50名)

嵯峨野高校のグローバル環境ラボの課題研究の2チーム生徒(7名)が参加

(4)内容：

- ・アイスブレイキング
- ・上賀茂神社・乾光孝氏による世界遺産の講話及びフィールドワーク
- ・ワークショップ(温故知新-どのような未来にしていくなか)
- ・ポスターセッション(各校の持続可能な発展教育の取り組みの交流)

F. 伝統文化・世界遺産

海外のパートナー校との国際ワークショップ(国内・海外)における日本文化についての説明や実際に日本文化にふれる機会を設定し、生徒は、日本文化、日本人のアイデンティティを英語で伝えることを経験した。

海外の学生とのワークショップや国際ワークショップや今回の人文科学フィールドワークでは、世界遺産に登録されている天龍寺や仁和寺を会場とし、生徒が京都の文化財を深く知り、また海外の方に伝える機会とした。

また、7月28日(木)には人文科学フィールドワークを実施した。

「仁和寺の歴史等について」について講話を聞き、「聞香体験」では香道や香木の歴史を学ぶと共に、全員で香りの違いを聞き比べ、香木の香りを深く味い、「茶席体験」では茶道の歴史、礼儀の意味、茶を味わった。また、「仁和寺フィールドワーク」では仁和寺内の建物を調査し、歴史的建造物に隠された意味について考えた。「狂言ワークショップ」では、茂山狂言会からの教授・指導のもと初めての狂言を経験した。多くの日本文化について学ぶフィールドワークであったが、今年度は、「伝統文化についての調査発表」として8グループに分かれて、「仁和寺・狂言・香道・茶道」について調べ、発表を行い、「体験したことをさらに深め、発信していく」ことを学んだ。

(2) 活動時間について(下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用(総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他()

活動の内容を補完する以下の資料があれば添付願います。※公表しません

- 紙媒体の参考資料(新聞、出版物など)
- CD-ROM
- 写真
- その他()

(2) 活動時間について(下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用(総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他()